

(発言者について)  
「副委員長、〇〇委員」  
は、「委員」に全て変更

## 第2回 桐生市総合戦略推進委員会 議事録

1. 日 時 平成28年12月7日(水) 午後6時30分～午後8時20分

2. 場 所 桐生市市民文化会館 4階 第2会議研修室

### 3. 出席者

【委員】 委員長：桐生市総合計画審議会会長職経験者 宝田 恭之  
副委員長：桐生商工会議所 会頭(代理 専務) 石原 雄二  
委 員：桐生商店連盟協同組合 副理事長 茂木 理亨  
新田みどり農業協同組合 副組合長 藤生 英喜  
群馬県桐生みどり振興局 局長 栗原 哲也  
群馬大学工学部 教授 板橋 英之  
桐生商業高等学校 教諭 教務主任 北風 久子  
桐生信用金庫 常務理事(代理 経営企画部長) 竹内 崇  
足利銀行 桐生支店長 八田 欣弥  
群馬銀行 桐生支店長(代理 副支店長) 上村 忠幸  
桐生公共職業安定所 所長 新井 保敬  
桐生タイムス 事業推進室長 小澤 義明  
桐生市区長連絡協議会 第3区長 茂木 新司  
桐生市社会福祉協議会 常務理事 高松 富雄  
きりゅう市民活動推進ネットワーク 代表 近藤 圭子  
NPO法人キッズバレイ 代表理事 星野 麻実  
桐生青年会議所 理事長 坪井 良樹  
桐生市婦人団体連絡協議会 会員 田中 洋子  
桐生市環境審議会 会長 赤岩 英夫  
2015年からの生活交通をつくる会 会長 佐羽 宏之  
(欠席者) 桐生広域森林組合 総括課長 栗原 和人  
桐生織物協同組合 共販部係長 品川 悦子  
桐生市PTA連絡協議会 副会長 増山 大祐  
桐生市医師会 理事 鈴木 康郎

【桐生市】 桐生市長 亀山 豊文  
副市長 鳥井 英雄  
(事務局) 桐生市総合政策部長 金井 利雄  
桐生市総合政策部企画課長 和佐田 直樹  
桐生市総合政策部企画係長 田島 規宏  
桐生市総合政策部人口対策室主査 増山 隆幸  
桐生市総合政策部企画係主任 小松 直也

【傍聴者】 1名

【報道関係】 1社

#### 4. 議 題

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 自己紹介（今回初めて出席する委員のみ）
- 4 議題
  - (1) 地方創生関係 各交付金事業の取組状況
  - (2) 総合戦略事業 主な実績及び新たな取組
  - (3) その他
- 5 その他
- 6 閉会

#### 5. 議事の概要

（開始：午後6時30分）

##### 1 開会

<田島企画係長>

本日は、桐生広域森林組合栗原委員、桐生織物協同組合品川委員、桐生市 PTA 連絡協議会増山委員、桐生市医師会鈴木委員より欠席の御連絡があり、また桐生商工会議所山口副委員長、桐生信用金庫横倉委員、群馬銀行荻野委員より代理出席の御連絡をいただいているが、本委員会設置要綱で定める過半数に達し、委員会が成立していることを報告する。

##### 2 市長挨拶

<亀山市長>

皆様、こんばんは。本日は、第2回の桐生市総合戦略推進委員会ということで、皆様方には年末のたいへんお忙しい中このように大勢の御出席をいただいたことに、改めて心から感謝を申し上げる次第である。また、日頃から桐生市政はもちろんのこと、それぞれの分野において桐生市発展にお力添えをいただいていることに、改めて心から感謝を申し上げる。

さて、委員の皆様のお力添えをいただいて、今年3月には「桐生市人口ビジョン」及び「桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定することができた。

今年度は、“桐生ならではの”の地方創生を本格的に開始した年であり、現在様々な分野において国の交付金事業をはじめとする各種事業を推進しているところでもある。

本日、お手元に配布した議題は、今後の事業展開に関する事項を予定しており、現在平成29年度の予算編成中であるので、桐生市として是非とも実施したい、進めていきたい事業について、現時点における考え方を説明させていただき、御意見を頂戴したいというふうに考えている。

また、先日委員の皆様方から頂戴した御意見については市役所全体に伝え、平成29年度予算に反映できるよう検討をさせているところでもある。委員の皆様方には、それぞれの知見を生かした御意見や御提言を賜りますようお願いを申し上げ、開会に当たっての御挨拶とさせていただきます。

今日は、よろしくお願ひしたい。

##### 3 自己紹介

○今回初めて出席する委員の自己紹介を行う。

#### 4 議題

委員長が議長となり、議事を進行。

<委員長挨拶>

スムーズな進行とともに、実り多い推進委員会にしたいと思う。是非忌憚のない御意見をいただきたいので、よろしくお願ひしたい。

それでは、まず議題の(1)ですが、地方創生関係各交付金事業の取組状況について、事務局から説明をお願ひしたい。

##### (1) 地方創生関係 各交付金事業の取組状況

<事務局より説明>

事務局より、資料1「地方創生関係各交付金事業の取組状況」について説明。

<補足説明>

今、担当の方から1つの継続事業と新たに採択されたばかりの3つの事業を紹介させていただいた。最初の加速化交付金の事業については、概要の方は省略させていただいたが、今日初めて参加の委員さんもいるので少し確認のために御説明させていただく。桐生市出身のゲームクリエイターである殿岡さんが市内に株式会社ニュートロンスターを設立し、商工会議所や商店街、群馬大学、キッズバレイの協力による連携体制を推進している事業ということで、主に2つの事業概要がある。1つは、スマートフォンのGPSを使ったエンターテイメント事業ということで、今ポケモンGOというのが流行っているようであるが、そのようなイメージの事業が1つ。それと、街なかにセンサー網を構築し、ビッグデータを蓄積して活用できる環境を整備する2つの事業である。進捗状況であるが、少し予定よりも遅れているが、12月中旬から下旬にかけてプレスリリースとプレオープンができるよう調整していることを担当から聞いていることを補足する。

<委員長>

予定としては12月末ぐらいか。

<事務局>

12月中ということです。

<委員>

赤城山観光振興のところ、事業主体を見ると桐生市関係はぐんま昆虫の森だけで、あとは前橋である。ところが、内容をみると子供を含めた週末型・目的志向の体験型ツーリズムだとか、インバウンド需要であるとか、この辺、果たして桐生に来るのかどうか。みんな前橋の方から入ってしまうのではないか、そんな感じがする。赤城山は桐生市も一応入っているが、赤城山に行くには前橋の方からというイメージが強いので、どういうふうにして桐生にお金が落ちるのだろうかとか、人が入ってくるのだろうかということを説明を聞いて思った。

<事務局>

おっしゃるとおり、この事業は前橋市との連携事業になるが、事業費から見てわかるかと思うが、前橋の方がメインということで立地的にも前橋が大部分を占めており、もちろん桐生市分もあるが、どちらかというとな前橋市の主導によるNPOに対する補助事業ということで、御指摘のとおり概

要になる。この事業は5年間継続する事業で、そういった意見も参考にさせていただく。それから5年間の概要計画は立てているが、2年目以降については変更も可能である。進捗状況を見ながら、これをどこまで桐生市分として広げていけるのかということも検討できると思う。

#### < 亀山市長 >

確かに只今の御発言、どの程度桐生市分のことができるのかということであるが、今、事務局より説明があったとおり、これは前橋市が主体であり、赤城山を活用した観光をやろうということで桐生市にも入ってほしいということで依頼された。そんな中、今1・2年のことは決まっているが、その後の3年間はこれからの事業を考えていく中で、先日、前橋市長と話をした中では、昔ケーブルカーがあったが、この辺をグルッとまわって水沼の方に降りてこられるとか、いろいろ夢が大きく膨らんでいる事業であるため、これから積極的に関わりながら赤城山観光を生かしていきたいと考えている。

#### < 委員 >

5ページの職支援事業の中で、共同で仕事を行うスペースの提供だとか子育てしている主婦でも空いた時間に仕事ができる環境と書いてあるが、具体的にはどういう形態を考えているのか。

#### < 事務局 >

先程、予算編成中ということで話をしたが、今考えているのは今日も出席しているキッズバレイが実施主体になるということで、例えば、月3万円程度の小規模ビジネスの育成を支援して将来の創業につなげるため、子育てや介護など様々な要因で就職することが困難な主婦層などの市民に対して仕事を提供することで活性化を図るような事業に、この交付金をあてることを検討しているところである。

#### < 委員 >

3ページのヘリテージツーリズムであるが、歴史とか文化とか伝統産業を活用した事業の発信とあるが、これはどこでもあるのでストーリーが重要である。桐生と足利ならではのストーリーを作り、ストーリーに基づいて情報発信をすることが重要である。是非、ストーリー性を考えてほしい。またターゲットであるが、これは浅草と繋がっていて外国人観光客は非常に重要であるので、そこにターゲットを絞る。そして、パンフレットは簡単にできるので、案内をできる人材をこちらに用意する。群馬大学理工学部は、桐生だけで留学生が200人近くいるので、是非それを使っただき、ここでないとできない事業をしてほしい。あと5ページのところで、まちの活力創出事業にコンパクトシティ計画の立案とあるが、今群馬大学理工学部を中心とした完全自律型の自動運転ができるような社会を作ろうということで、これはエリアを決めないと駄目なので、是非桐生市でやっていただきたい。桐生が日本で最初の完全自律ができる市、場合によっては世界で初めてかもしれない。完全自律型の自動運転ができる市になるようにしていただきたい。今、超スマートシティ社会を作ろうとしているが、一番最初に実現するのは桐生市。超スマートシティは絶対に完全自律型の自動運転社会が必要になってくるので、それを桐生市で入れる。その方向性でもって、いろいろな事業に取り組んでいただきたい。

#### < 委員 >

3ページの受け入れ体制の整備で、ガイドの養成も重要であるが外国人を招くということであれば、駅など一番最初に来る場所にインフォメーションをつくるのが大事ではないかと思う。

<事務局>

参考にさせていただきたいと思う。

<委員長>

加速化交付金事業における街の案内について、外国の人も見ることができて英語でちゃんと表現されていたらいいと思うが、これは日本人向けなのか。

<委員>

観光ガイドの方は、日本語のほかに英語、韓国語、中国語である。

<委員>

1 ページの現在行っている観光ゲームであるが、だいぶ後手後手になっているような気がしている。第1回の時にも話があり、この事業は8千万円で大きな事業であるが、次年度にどう繋げていくのか。また、次年度計画したものに対して予算をつけていけるのかどうか。ちょっと心配というのはおかしいが、この部分がどうなっているのか伺いたい。

<鳥井副市長>

今の御質問の件であるが、当初の予定では、次年度以降きちんとシステムが運用できれば、完全自立型というようなことで自立していただくような目論見で進めていた。現時点で若干遅れているようなことがあり、そういうことは可能かどうかという微妙な部分はある。しかしながら、8千万円の事業費をかけて成果物を構築していくようなこともあるので、途中で頓挫させるわけにはいかない。また、大手電子通信関係の企業からサポートの申出などを受けているので、どのくらいのサポートを受けられるのかということにも関わってくるかと思うが、いずれにしても行政が途中でサポートを辞めることによって全体が消滅してしまうようなことが起きないように支援していきたい。

<委員>

3 ページのヘリテージツーリズムであるが、先程来多言語によるパンフレットという御意見が出ているが、どちらかというとパンフレットではない。外国人観光客はスマホを持っていて、現地に着いてから検索をして調べるので、対応するサイトの構築。その中で、言語を選択できるというのが理想的であると思う。それで、成功している自治体の事例もあり、岐阜県の飛騨高山かどこかだと思うが、人口3万人くらいの村にスマホサイトを構築し、それが外国人観光客の間に広まったことにより、何十万人もの外国人観光客が来ている。それで、必然的に居酒屋や食堂、まちのお店などは片言の英語で話ができるようになり、結果受入体制が充実してきたことにより、さらに観光客を呼び込むような流れになっている。是非、ここは紙ではなくスマホサイトに重きを置いて実施していただいた方がいいと思う。

<鳥井副市長>

今、委員さんがおっしゃられたシステム。今、いろいろなシステムが出ているが、その中でQRコードを使い言語を選ぶと、例えば日本語のパンフレットあるいは日本語の案内板、レストランなどでのメニュー、こういったものが写真部分はそのままで、日本語で表記されている部分が選んだ言語で御覧いただけるようなシステムが安価で出ている。それらを十分に吟味した上で、どういったものが一番よいか見定めた上で活用していく。外国の方が桐生に訪れても、言葉で不自由するこ

とがないようにサポートすることは考えていきたい。

<委員>

パンフレットなど紙媒体の場合どこでもらえるのか、どこで配付しているのかということが絶えず付いてまわる。せっかくいいものを作っても、必要としている人の手に渡らないということもあるので、是非、副市長が言ったように進めていただければと思う。

<委員>

いつも細かいことを言って申し訳ない。3ページの東京オリンピックを見据えた外国人旅行者対策と書いてあるが、東京オリンピック・パラリンピックと書いてもらいたい。

## (2) 総合戦略事業 主な実績及び新たな取組

<事務局説明>

事務局より、資料2「総合戦略事業 主な実績及び新たな取組」について説明

<補足説明>

だいぶボリュームのある資料で、今後新たな取り組みのある施策事業の項目について説明させていただいた。その他の説明を省略した項目についても実績等があるので、後ほど確認をしていただければと思う。それから、8ページの不妊治療費助成事業は説明を省略したところであるが、実績のところ平成27年は87件あった。今年度は、10月末現在で10件という表記になっている。この差について担当に確認したところ、継続して通院等される方が多いということで、何回も通って領収書をまとめて年度末に申請する方が多いため、今年度も予算額をオーバーするかもしれないという話を担当から聞いており、決して数が減っているわけではないことを御理解いただきたい。

<委員>

16ページの鉄道を基軸とした地域間連携の実績に書いてある、わたらせ渓谷鐵道連絡協議会の項目であるが、会長がみどり市長なので本当はそちらにお願いしなければいけないのかもしれないが、夏の観光キャラバンで、ここ数年東武日光駅というのを実施している。これは、実際にパンフレットを配る時間帯が日中であるため、ほとんど客がない。また外国人がほとんどであるため、日本語のパンフレットを配っても意味がない。東武日光駅でやるのであれば、東武鉄道に乗り入れている東急電鉄や北千住に接続している小田急電鉄などの私鉄沿線で実施するように勘案していただくのと有効だと思うのでお願いしたい。

<事務局>

貴重な御意見ありがとうございます。是非、そのとおりに提案させていただきたいと思う。

<委員>

この資料を検討するのは今日だけなのか。というのが、時間内に一つずつ皆さんで協議していたら時間が足りないと思う。もしできれば、こういった資料は1週間または10日前に配付していただきたい。我々も目を通して会議に臨む方が時間的にもいいと思うので、そうしていただければと思う。

それと5ページの空き家利活用補助のところ、桐生市版の空き家空き地対策条例というのは来年度に策定する予定なのか。一応、内容はかなりそういったことが盛り込まれているが、具体的に

わかれば教えていただきたい。

#### <事務局>

まず1点目の資料の件については、今後は事前に配付できるようにしたいと思う。たいへん申し訳ございません。それから2点目の空き家の条例については、来年3月の定例会に条例として提案する予定である。中身については、現在パブリックコメント中ということでホームページに掲載しているのですが、お手数ではあるがそちらを御覧いただければと思う。

#### <委員>

もう1点、2ページの空き店舗活用型新店舗開設・創業促進事業で、この事業が当時始まった時の趣旨というのは、やはり中心市街地、中心商店街の空き店舗対策というような意味合いが強かったと思う。それがいつの間にか、市街地外における事務所等にも対象が広がってきている。これは、創業支援のための事業なのか中心市街地の空き店舗対策の事業なのか、その辺の趣旨がかなりぶれてしまっているのではないかとということで、今後どうやっていくのか伺いたい。

#### <事務局>

委員のおっしゃるとおり、当初は中心市街地における空き店舗活用ということであったが、今年度から市街地外も対象にするということで、もちろん中心市街地の活性化ということもあるが、それ以外の創業促進についても図っていくという趣旨もある。基本補助額が、中心市街地は100万円、中心市街地外は50万円ということで、半分であるがそちらでも補助するということで御理解いただきたい。この件については、当初予算が既にいっぱいになり、たいへん需要が多いということで、今度の12月議会に補正予算として追加計上させていただいている。今後、補助申請をする方が既に7件程いるということで、足りないような状況で好評を得ているのでよろしくお願いしたい。

#### <委員>

1点だけ、2ページの創業促進・支援事業で、ホームページを見させていただいたところ、創業した人はいるが創業した場所が桐生市でないところが多かったと思っており、せっかく桐生市で支援して桐生市で育ったのであれば、桐生市に会社を構えてもらって桐生市で雇用を創出してもらった方がよいと思いがなっていた。例えば、最初の3年間は桐生市内に事業所を構えるだとか、そういう形であればもっとよいのかなと思う。

#### <鳥井副市長>

今の件に関しては、入居申込みをしていただく時にプレゼンをしていただく。その中で、インキュベーションオフィスを出て創業する時は、極力市内にという話をいただく中で入居決定をしているが、現実にはいろいろな業種の方がいて、桐生でやるより別のところでやった方がみたいなことで徐々に勉強する中で考えが変わってきてしまうようなことがあり、やむなく市外で創業する方がいるのも事実である。このことを条件にしてしまうと、インキュベーションオフィスを出た後、どこで創業しようかということを決めていない方は入居に対して二の足を踏んでしまう。他の地域でも最近インキュベーションオフィスというのが出てきて、制約がないところに人が流れてしまうことで機会を逸してしまうことがあるのも事実である。この総合戦略の中でも、創業支援というのは非常に大きなウェイトを占める部分でもあるので、創業支援の様々なメニューを体系化させる中で、極力地域内に留まってい ただけるような施策を考えていきたいと思う。

<委員>

ありがとうございます。せっかくなので、桐生でやってほしいと思ったところである。

あともう1点意見であるが、最近市内に小さい喫茶店や新しいお店が増えているが、ちょっと残念なのは、せっかくお店を開いたのに2・3年くらいで閉店してしまう店があり非常にもったいないと思っている。例えば、どうすれば売り上げを上げることができるのかとか、細かな相談ができるような支援があればいいと思った。

<委員>

たくさんのプロジェクトを拝見して、どれもこれもというわけにはいかないのですが、各地方横並びのものと桐生に特化したものに分けて拝見した。例えば、10ページのサイエンスドクター事業は、国立大学が地域の拠点として役割を十分に発揮できるプロジェクトかなと思っている。そこで、活用している学校が6校とあるが、桐生市の中学校はいくつあるのか。

<委員>

新里と黒保根を入れて10校。

<委員>

そうすると、たくさん使われていることになる。それからもう一つは、こういう事業を行う時に大事なのが大学院生が指導に行くわけだが、大学院生がいい加減だと何のことかわからない。大学として、指導者にどういう教育をしているのか。

<委員>

私が全て指導者の面接をして、いいだろうという者を派遣している。また、教育委員会と連携を取りながら問題がある者は報告してもらい、その時はもう一度教育する。あるいは、場合によっては違う者を派遣している。

<委員>

それから、4ページの森林・林業再生のための基盤整備。これは、こういった地球環境を持続的に発展させなければいけないということに関連して、桐生として将来的に発展が見込まれるのかなと思った。ただ事務局に一言、全体を通してだがカタカナが多すぎる。日本語で書いてほしい。例えば、今後の新たな取り組みのところに、「ストックヤード候補地にアクセスするための道路を整備する」とあるが、これは材木置き場への道を整備するということである。ここだけに限らない。書いている者はわかっているのかと思いながら見ていた。

<委員長>

桐生市だけでなく、日本全体がそういうようなことになっている。その辺は、私も見直した方がいいなと考えていた。

<委員>

市の中でどう出してくるかわからないが、おそらく課や部の単位でもって、こういう事業をあげるって出してくる感じだろうか。そうすると、どうしても全部の所に新しい取り組みが出てきてしまう。そうしなければいけないのかもしれないが、まち・ひと・しごと総合戦略推進委員会で早急に取り組むべきものはどこなのか。10年後、20年後あるいは50年後どうしたいのかとい

うことを描いて、そのために今すぐ取り組むべきものはどうなのかというものを重点的に取り上げていくことが重要だと思うが、こういうものだと全部になってしまう。その辺のうまい出し方を是非検討していただきたい。例えば、先程あったが商店街が廃れてしまっただけでは話にならない。いくら桐生の人口が増えても、商店街が駄目になってしまっただけでは意味がないので、やっぱり50年後こういう商店街にしたいのだと。では、そのためにどういう商店街の活性化があるのかということが出てきてはいるが、中央商店街の活性化は新たな取り組みがない。今ココトモさんがやっているのは、継続する新たなものかもしれないが、やっぱり商店街の活性化をこうしたいのだという意見の出し方を考えていただきたい。

<委員長>

この総合戦略の会議の中で、重点施策だと決めてやったものと繋がりがわかるようにすることが必要だと思う。これだと全部網羅しているだけである。

<鳥井副市長>

たいへん申し訳ありませんでした。今、御指摘いただいた重点の部分。委員長からもお話いただいたが、実際の総合戦略の中では重点的に取り組むべき事項というようなことで、差別化をした表記の仕方をしている。そういったものに関して、今回の資料2は、それぞれの事業毎の表記の中で、差別化などの配慮をした表記を行っていないため連動性を欠くようなところもある。また、それぞれの事業に進捗しているもの、あるいは実績が出たもの、来年度こういう取り組みをしようとしているものを資料2に網羅させていただいたが、重点施策として今おっしゃられたような中心市街地の活性化や林業振興策、あるいは創業支援や空き家空き店舗対策など取り組むべき事項がそれぞれ散りばめられているので、重点事項と表記できるように今後させていただきたいと思っている。

<委員長>

たぶん委員の皆さんも私もそうですが、前の資料の内容などは忘れてしまう。だから、その都度出された方がよい。それで、この資料はこれでよいが、今後重点施策はここに相当するとわかるようにしていただきたいと思う。

<委員>

農業振興について、農業後継者育成事業で国が言っている育成支援は、親父と同じ事を行ったのでは支援しないということであるが、その点について新しく目を向けられたということは、新里・黒保根のこともあるが農業振興に大きな意味をもったと感じている。それから、農作物残渣適正処理事業補助金であるが、都市化・混住化の中で、特に施設園芸においては残渣が発生する。処理については燃やすかすき込みの方法があるが、すき込みはビニールやポリが混じっているのでできない。また燃やす場合は、一時的な焼却は違法ではないが煙が出ると困るという時代になってきたので、すぐに通報され消防車が駆け付ける。そういうことを考えながらも、農協としては園芸をやっている農家については残渣を燃やすような方向で指導しているが、指導に対しても裏付けがないので苦労している。そうした中で、こういう点が新たな取り組みとして出てくると、都市化・混住化の中で農業をやっている者に対しては助けになるので、この項目は大事な部分の一つと思っている。

<委員>

12ページの自主防災事業のところをお願いがある。ここ何年か、桐生市の防災会議は行われていないと思う。書面での会議になっていて、やはり防災というのは顔を合わせて関連団体との連携

というのが大事であると考え。年に一度の会議になると思うが是非開催していただき、関連団体との連携を深めていただければと思う。

<事務局>

軽微な修正の時には、書面での稟議とさせていただいているところであるが、今の御意見を伝え検討させていただきたいと思う。

<委員>

13ページの健康寿命の延伸のところ、事業内容が検診という形になっているかと思うが、重要なのは病気になるようにすることである。特に高齢化社会になる中で、高齢者が結構元気なのに食がなかなかうまくいかないで、具合が悪くなってしまうケースが多々あるかと思う。特にひとり暮らしの人に多く、調理が面倒くさいという理由からカップラーメン等で済ませてしまう。そういった高齢者の食育的なものを加えていただければと思う。さらに進めていただければと思うのが、今言ったひとり暮らしの高齢者に対して一緒に食べられるような場の提供というのもあったら、なおいいのかと思う。年寄り、一緒に食べれば食も進むし良いものも食べる。会話も進むから認知症予防にもなる。ひとりであることで体と頭が衰えてしまう。そういったことを推進すれば、当然医療費の削減にも繋がると思うので、そこも加えていただければと思う。

それともう1点、安全安心の観点のところ、つい先日イノシシに襲われて亡くなった方がおられるということで、特に桐生市の場合は里山が多くて山と居住地が近い状態のところが多々あるかと思うが、それを考慮して鳥獣害対策も新たに考えていただければと思う。

<事務局>

有害鳥獣対策は拡充しているが、総合戦略事業としての位置づけにはなっていない。

<亀山市長>

最後の有害鳥獣対策だが、今はイノシシでも何でもそうであるが、桐生市だけでは対応できないことがたくさんある。今、前橋だとか渋川・沼田、赤城山の連携で一緒にやろうかという話があるが、日本全体が繋がっているんで桐生市が対処しても次は前橋や渋川に行ってしまうので、もう少し県の方でもしっかりとやってほしい。総合戦略は、将来を見据えた安全安心という部分でなくてはならないかと思うが、その辺は県にも言っていただければありがたい。

<委員>

確かに、川鶉などは桐生市に逃げてきてしまっているんで、広域的な有害鳥獣対策が必要と思う。下手をすると県域、県をまたいでの対策となる。

<委員>

最後に、先程空き家空き地対策のことを聞かせていただいたが、それと関連してやはり立地適正化計画。これは、桐生市としても来年度以降どういうふうな計画を立てていくのかということで、街の在り方にとってマスタープランになるものなので非常に重要と思っている。その中で、15ページの公共施設等総合管理計画では、パブリックコメントやアンケートを実施しているようであるが、皆さんご存じのように桐生市の公共施設、市民一人当たりの面積が12市の中で断トツに多いと聞いており、維持管理を含めると相当財政負担が大きいと思う。これをいかに早く民間に移行や売却、または行政で利活用するか。主に公共施設というのは中心市街地に多いと思うので、重点的

な政策として取り組んでいただきたいと思いますと思い要望する。

<委員長>

よろしいですか。だいぶ時間も押していますので、議題2はここで終了いたします。

### (3) その他

<委員長>

議題3はその他で、だいぶ御意見をいただいたと思うが、その他に何か御意見があれば。

<委員>

議題1のところ、だいぶ多く出てきたキッズバレイさん。こちらは、桐生市からいろいろな事業をお願いすることが多くなってきた感じがする。若い人たちが活躍して、やる気がたくさんあるが、やはりそこを支えていくことがとても大事だと思うので、是非、団体の継続ができるようにお力を貸していただければと思う。

<委員長>

それでは、議題3を終了いたします。

以上で、本日の議事は全て終わりましたので、ここで議長の任を解かさせていただきます。御協力ありがとうございました。

<事務局 田島企画係長>

○推進委員会の開催日程について説明。

次回の委員会の日程であるが、委員さんの任期が平成29年7月31日までとなっているので、その前に開催することを想定している。その際には、予算が確定した平成29年度の総合戦略事業について御報告させていただきたいと考えている。日程については、決定次第、別途御連絡させていただくのでよろしくをお願いしたい。なお、会議終了後、謝礼のお支払いに関して個人番号、マイナンバーカードをお持ちいただいている委員さんがいましたら、お帰りになる前に事務局にお立ちよりくださるようお願いしたい。

5 その他

6 閉会

(終了：午後8時20分)